

出張！図書館ミーティング（マジミエ図書館 Z ラボ）

2月12日(日)に、出張！図書館ミーティング(マジミエ図書館 Z ラボ)と題して、カンカンバイサイドモール「ちきりプラザ」West2階で開催しました。32名の方にご参加いただきました。オープンな場での開催は、初めての試みでした。

講師は、アカデミック・リソース・ガイド株式会社代表取締役の岡本真氏。今回のミーティングは、令和4年11月23日に開催された図書館シンポジウムで「こんな図書館があったらいいな」を形にして発表してくださった大阪公立大学工学部建築学科3回生のみなさんにもご参加いただき、これからの図書館(公共空間)について、一緒に考えました。今回もいろいろな立場の方が参加してくださいました。

午前

模型の講評会

午前中は学生さんたちと講師の岡本真氏による模型の講評会を行いました。講評中、通りがかった方々が「何をしているの?」「何の模型?」と、興味を持って見てくださっていました。図書館の外に出て「知ってもらう」ことの大切さを感じました。



公開ミーティング

午後

【前半】学生のみなさんが思い描く「未来のメディアプレイス」

参加者の感想

- 岸和田らしさにも、変化するものとしめないものがある。
- 言論が自由に発信できる場になって欲しい。
- コスト面の問題をどう解決するのか。クラウドファンディングも しっかりとした案がないと失敗する。
- 新しい公共空間を考えるにあたって、さまざまなアプローチが必要だと感じた。歴史、利用者、コスト、場所、複合化、利用者時間帯等々、どう優先順位をつけるのか、誰がそれを行うのか関心がでた。
- 学生の方々のお話を直接聞いてテンションが上がりました。



【後半】 新しい岸和田市立図書館に本当に必要なこと

参加者の意見

- これからの公共空間を考える際には、これから先の可能性を考えて、複合施設として組み合わせる価値があるもの考える。
- 地元の図書館は10時～22時、365日開館していた。開館時間が長いと勉強する学生にとって便利だと思う。
- 新しく図書館を建てる上で必要なことは、良いところはもっと良く、悪いところは改善していくこと。これから先だけを見て、足元が見えていない状況は危うい。
- 駅から平行移動でき、雨の日に傘をさせばいいというのではなく、傘をささずに行けるようにつながっていることは利便性を考える上で重要。



講師からのアドバイス

- ひとりひとりが主体性を持って動くことが大事であり、何かして欲しいと思うなら、自分がしてみる方が早い。自分が矢面に立つのはしんどいが、後ろを振り返ればきつと、一緒に歩いてくれている人がいる。自分が率先して動けば、誰も見たことがない景色が見られるはず。
- 公共空間だからこそ、誰にとっても使いやすく、行きやすいことが重要。
- 市民が主導権を持つことが大切。



アンケートより

- 普段の生活では気づかないような岸和田の魅力を再発見することができて面白かったです。図書館だけでは来る人の年齢層などが限られてくるので、複合施設という発想は、さまざまな年齢の方が集まって地域が活性化するきっかけになるのではないかと感じました。
- 皆様のご意見を聞かせていただき、大変勉強になりました。私は祭りに参加しているので「だんじりだけじゃない」等の意見もありましたが、「だんじりは確かに岸和田にある」ので、その視点も今後の図書館にあつたらいいなと思いました。多様性を許容できる図書館がほしいと思いました。
- 地域の公共施設について、このような場で、地域の人で話し合う機会があるのがすごく良いなと思いました。大学の設計ではあまりお金のことは考えなかった観点なので、新鮮なお話しをお聞きすることができました。まずは、どのようなことに市のお金がかかわられているのか、それを良しとしているのかを知ることが大切だと思いました。



ちきりプラザでの公開ミーティングは、「普段は図書館に全く興味がない」という方にも、「何をしているの?」と関心を持っていただくことができました。今後も市民のみなさまや関係者のみなさまとともに、図書館ミーティング(マジミエ図書館 Z)を開催していきます。